

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 7 部門第 2 区分
【発行日】 令和 5 年 2 月 27 日(2023.2.27)

【公開番号】 特開 2021-163798(P2021-163798A)
【公開日】 令和 3 年 10 月 11 日(2021.10.11)
【年通号数】 公開・登録公報 2021-049
【出願番号】 特願 2020-61774(P2020-61774)
【国際特許分類】

H 0 1 F 27/06(2006.01)

H 0 5 K 9/00(2006.01)

H 0 1 F 17/06(2006.01)

【F I】

H 0 1 F 27/06 1 0 1

H 0 5 K 9/00 G

H 0 5 K 9/00 L

H 0 1 F 17/06 K

【手続補正書】

【提出日】 令和 5 年 2 月 16 日(2023.2.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

取付部材によって所定箇所に取付けられ、前記取付部材を構成する係止部材によって係止される電磁ノイズ対策部材であって、

電線の周囲を囲むための磁性体コアと、

前記磁性体コアを自身の内面に保持するための保持部材と、を備えており、

前記係止部材は、金属製の板状に形成されており、

前記保持部材には、前記係止部材を挿入するための挿入口が形成されており、

前記保持部材は、弾性部材を備え、

前記挿入口は、相対向する第 1 の壁および第 2 の壁間に形成されており、

前記第 1 の壁からは、前記挿入口に挿入された前記係止部材の第 1 面に当接可能な第 1 の突出部が前記挿入口に突出形成されており、

前記第 2 の壁からは、前記挿入口に挿入された前記係止部材の前記第 1 面と反対側の第 2 面に当接可能な第 2 の突出部が前記挿入口に突出形成されており、

前記第 1 の突出部および前記第 2 の突出部の各先端間の距離は、前記係止部材の板厚よりも長く構成され、

前記弾性部材は、前記挿入口に挿入された前記係止部材に係止し、

前記弾性部材は、前記係止部材が前記保持部材に対して振動する場合に、弾性変形することで前記係止部材から伝達される振動を吸収し、共振を小さくするように構成される電磁ノイズ対策部材。

【請求項 2】

前記係止部材には、係止孔が形成されており、

前記弾性部材には、前記挿入口に挿入された前記係止部材の前記係止孔に係止する係止体が設けられており、

前記挿入口に挿入され、前記係止体が前記係止孔に係止された前記係止部材は、前記弾

10

20

30

40

50

性部材によって付勢された状態になることを特徴とする請求項 1 に記載の電磁ノイズ対策部材。

【請求項 3】

前記挿入口に挿入された前記係止部材は、前記係止体が前記係止孔に係止された状態を維持しつつ振動可能であることを特徴とする請求項 2 に記載の電磁ノイズ対策部材。

10

20

30

40

50